

KDMoP
Shonai Photo Meeting
ーリミックス土門拳ー

9.27 [Fri] – 10.22 [Tue]

KD MoP
= Ken Domon Museum of Photography
土門拳記念館



2023年11月、土門拳記念館は、地元・庄内地域の写真家や美術家たちが中心となった交流や活動の場を新たに創出することを目指し、新プロジェクト「KDMoP Shonai Photo Meeting」を立ち上げました。KDMoPは、土門拳記念館の英語名=Ken Domon Museum of Photographyの略称。この少々覚えづらいプロジェクト名は、展覧会やワークショップなど、その活動を様々な形でアウトプットすることによって、写真・美術を介した双方向的なコミュニケーション (=Photo Meeting) を多くの方々と共有することを目指して名付けられました。写真表現が多様化する今日、20世紀日本を代表する写真家・土門拳の故郷である庄内エリアで、現代作家の活動の場を広げていくことを志しています。

初めて行う今回の展覧会では、「土門拳」をテーマに、キャリアや作風の異なる5人の作家がそれぞれの眼差しで写真家・土門拳を新たに解釈し、作品を発表します。メンバーは全員庄内出身もしくはは在住の、地元に近い関わりを持つ作家たちです。発表作品のメディアは写真が中心となりますが、インスタレーションや映像など、写真に隣接する幅広い媒体を取り入れ、多様な表現が展開されるグループ展となる予感。土門拳記念館における新たな試みをどうぞお見逃しなく！

Press Release



●会期中のイベント

ご予約・お問い合わせは土門拳記念館まで

9/28 (土) 14:00 – 参加作家によるギャラリートーク

要予約・参加無料 (要入館料)

10/12 (土) 13:00 – 16:30

大人の写真教室「青写真ポートレート」

写真の古典的な技法「青写真 (サイアノタイプ)」を楽しむワークショップです。今回は参加者各自が事前に用意したポートレート写真のデジタルデータからプリントを制作します。

講師：千葉奈穂子
定員15名 (要申し込み、先着順)
18歳以上対象
材料費 1,500円 (入館券つき)
*お支払いは現金のみ

10/19 (土) 10:00 – 16:00

あなたのポートレート in 土門拳記念館

本展参加作家の本間聡美氏が、土門拳記念館の館内&周辺で、この日限りの・あなただけのポートレートを撮影します！

要予約・要入館料 / 10組限定 (複数人も可)
参加費 1組2,000円 *お支払いは現金のみ
(撮影時間30分以内 / 完成データ2カットを後日お渡し)

Press Release

参加予定作家 (2024年4月1日現在 / 五十音順)

五十嵐 丈 Joe IGARASHI

1993年生まれ。山形県鶴岡市関川という人口97人のムラに住んでいる。山間部ゆえ、キジが窓ガラスを割って入ってきたり、ハクビシンの鳴き声で目覚めたことがある。過疎化が進む過程に抗いながらも、おそらく無くなってしまおう地域の風景を【集落の遺影】として撮り続けている。また、写真そのモノの定義を拡張するような作品の制作を行う。

学歴

2012年 - 2016年：新潟大学 工学部化学システム工学科

職歴

2016年 - 2017年：大学で研究員として勤務

2017年：地元の銀行に就職

2018年：銀行を退職し、Green Blue あつみに就職 / コトグラフとして活動開始

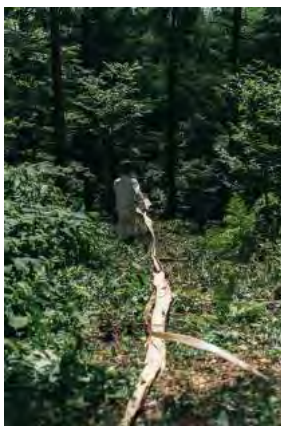
2019年：羽越のデザイン企業組合を設立

展覧会歴など

2018年：作品「アツムラシンジ」の撮影をスタート

2023年：2月「そこに魂は写らない」 3月「上ル下ル」 10月「漁業と解像度」

2024年：2月「分光写真」



●本展では

小型カメラ数台を接続したマイクロコンピューターを自動撮影が可能な状態にプログラミングし、自らの身体に装着。自身が住む集落を歩きながらランダムな撮影を行い、その写真 / 画像を用いたインスタレーションを、複数台のモニターによって展開する予定。この作品は、土門拳が提唱した「絶対非演出の絶対スナップ」を現代のテクノロジーを用いて再現・再考するという発想からスタートしている。

土門拳記念館
Ken Domon Museum of Photography

〒998-0055 山形県酒田市飯森山2-13 飯森山公園内
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>
[Tel] 0234-31-0028
[Mail] kendomon.mop@gmail.com (田中)

画像提供や詳細情報に関するお問い合わせは、左記までご連絡ください。

Press Release

千葉奈穂子 Naoko CHIBA

<https://photo-chibanaoko.com>

写真家。岩手県生まれ。現在山形県酒田市在住。岩手の過疎地に建つ家族の古い家とその集落を1998年から撮影している作品《父の家 My Father's House》は、千葉の最初の被写体であり、生涯をかけて制作を続けている。東北地方で長く共有されてきた暮らしや土地の歴史と、その背景を探りながら、写真古典技法のサイアノタイププリントやゼラチン・シルバー・プリントなどを用いて写真作品を制作している。東日本大震災と原発事故の後7年間福島県南相馬市に通い、集落の風習と人々の思いを綴った作品《Seaside Town 浜辺のまち》や、フィンランドのラップランド地方に残る地域文化とダム湖建設で無人になったムテニア村を撮影した作品《Northern Lights》など、震災や近代化の影響により変わりゆく暮らしと、北方の豊かな風土を、写真とエッセイを用いて綴っている。また、各地の美術館などで写真のワークショップ講師として写真技術も教えている。

略歴

1972 岩手県生まれ
1997 岩手大学大学院教育学研究科美術教育専修絵画専攻修了
1999 ICPA現代アート研究所（前橋）修了

主な個展に、『父の家 My Father's House』 Cyg art gallery(岩手/2022)、『紡ぎの抄』 ギャラリー・オフグリッド(福島/2021)、『父の家/Northern Lights』 萬鉄五郎記念美術館八丁土蔵ギャラリー(岩手/2019)、『Northern Lights』 Gallery Kopio(フィンランド/2018)、『N.E.blood 21千葉奈穂子』 リアス・アーク美術館(宮城/2013)、『太陽がいっぱい!千葉奈穂子写真展』 鶴岡アートフォーラム(山形/2011)。

主な展覧会に、『Spirit of North』 ロヴァニエミ美術館(フィンランド/2019)、『千葉奈穂子×アンティ・ユロネン写真展』 ノーザン・フォトグラフィック・センター(フィンランド/2018)、『アートで伝える考える福島の今、未来展』 福島県立博物館(福島/2017)、『場所と記憶 永岡大輔×千葉奈穂子』 山形美術館(山形/2016)、『普遍的な風景』 国際芸術センター青森(青森/2016)、『2016年のIMA』 岩手県立美術館(岩手/2016)、『Éclats de Photographie』 Musée Adrien Mentienne(フランス/2011)、『MOT アニュアル2007』 東京都現代美術館(東京/2007)など。作品は、Musée Adrien Mentienne (フランス)、Musée Gatien-Bonnet (フランス)、岩手県立美術館などに収蔵されている。



1 父の家 My Father's Houseより《たらぼ山》
和紙にサイアノタイププリント、2006年

1	2
—	
3	

2 父の家 My Father's Houseより《鶏小屋》
ゼラチン・シルバー・プリント、2022年

3 映像作品《父の家ノート》2022年

●本展では

上記の《父の家 My Father's House》《Seaside Town 浜辺のまち》などの作品を、プリント（写真）、写真集、映像、テキストなどのメディアで発表予定。こうしたドキュメンタリー的な要素を持つ作品を制作する際には、土門拳の写真集『筑豊のこどもたち』（1960年）を参照した点もあったという。土門と現代作家の繋がりは、「写真集」というキーワードでも辿ることができる。

土門拳記念館
Ken Domon Museum of Photography

〒998-0055 山形県酒田市飯森山2-13 飯森山公園内
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>
[Tel] 0234-31-0028
[Mail] kendomon.mop@gmail.com（田中）

画像提供や詳細情報に
関するお問い合わせは、
左記までご連絡ください。

Press Release

早坂葉 Yo HAYASAKA

プロフィール

美術家/ラッパー。2000年、山形県酒田市浜中生まれ。2019年に大学進学を機に秋田県秋田市へ移り現住。2021年に出生地である酒田市浜中と、居住地である秋田市浜田に共通する砂丘の風景を撮影し一つの物語として繋ぐ展覧会「砂が叫ぶ」を行った。その後も酒田や秋田を中心に、風景や土地の歴史に関わる作品制作を行う。インスタレーション、詩、ダンスなど多様な表現手法を用いて制作。

展覧会

『早坂葉・後藤那月二人展 めぐりに渗む』BIYONG POINT (秋田/2022)、『ひのはらアート2022』檜原村 (東京/2022)、『大森山アートプロジェクト2022 あそび×まなびのひろばVol.4 -ことばのしるし-』大森山公園 (秋田/2022)、『早坂葉・渡邊泰地 砂が叫ぶ』新屋NINO (秋田/2021)

パフォーマンス

『アキタジャムフェスティバル2024』ダンスサーカスBAZARとして (秋田/2024)、『Aokidプロジェクト うあーショーケース』秋田市文化創造館 (秋田/2023)、『渦』ココラボラトリー (秋田/2023)

CV

2000 山形県酒田市浜中生まれ

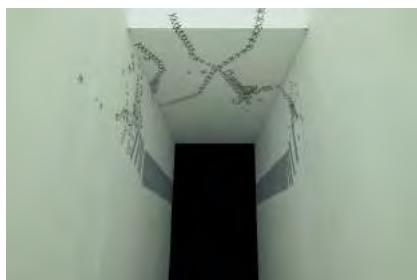
2019 山形県立酒田東高等学校 卒業

2021 『早坂葉・渡邊泰地 砂が叫ぶ』新屋NINO (秋田/2021)

2022 『早坂葉・後藤那月二人展 めぐりに渗む』BIYONG POINT (秋田/2022)、『ひのはらアート2022』檜原村 (東京/2022)、『大森山アートプロジェクト2022 あそび×まなびのひろばVol.4 -ことばのしるし-』大森山公園 (秋田/2022)

2023 秋田公立美術大学 卒業 『Aokidプロジェクト うあーショーケース』秋田市文化創造館 (秋田/2023)、『渦』ココラボラトリー (秋田/2023)

2024 アキタジャムフェスティバル2024』ダンスサーカスBAZARとして (秋田/2024)



1	2	1 《砂の家》 ゼラチン・シルバー・プリント 2021
3	4	2 展覧会「めぐりに渗む」より《回遊詩》 映像 2022
		3 展覧会「めぐりに渗む」より《水の形》 コンクリートポエトリー 2022
		4 《Footprints》 ミクストメディア 2023

●本展では

自身と土門拳の共通のルーツである庄内、あるいはこれまで自身が興味を持って取り組んで来た「砂丘」などのテーマを手掛かりに、当地におけるリサーチ / フィールドワークを基にした作品を発表予定。プリント (写真)、インスタレーション、パフォーマンスなど複数のメディアを扱う予定。

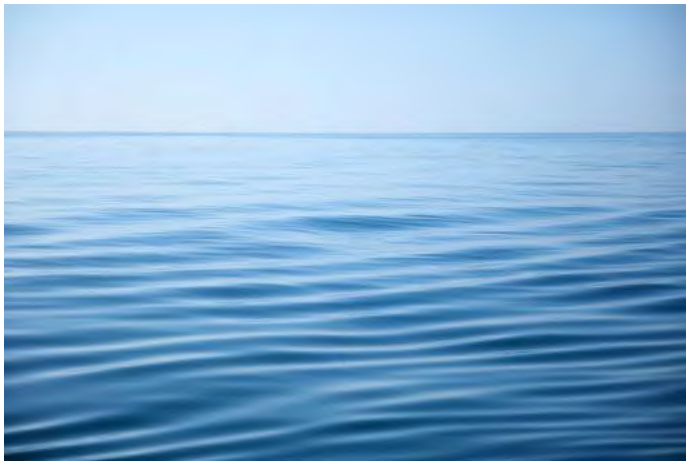
Press Release

本間聡美 Satomi HONMA

- 1980 山形県庄内町生まれ
- 2002 専門学校仙台カレッジオブデザイン ビジュアルデザイン科応用写真コース卒業
- 2002～2005 ジャパンクリエイティブ株式会社プライダルフォト部門勤務
- 2005～2008 株式会社リクルートコミュニケーションズ東北支社勤務
- 2008 宮城県仙台市を拠点にフリーランスフォトグラファーとして活動スタート
- 2015 山形県に拠点を移す

個展

- 2019 「Gradation」 ショウナイホテルスイデンテラス
- 2021 「image 本から写真へ」 内藤秀因記念館
- 2023 「introspect 内観」 日本海総合病院ホスピタルアートフロア



●本展では
自身と土門拳の共通のルーツである庄内の風土や人をテーマにした写真作品を発表予定。土門とのあいだにある相違点や共通点をも探る。

Press Release

王憶冰 WANG Yibing

中国貴州省生まれ。2014年来日。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。東京藝術大学「ケア×アート」をテーマに「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクト「Diversity on the Arts Project」3期生。社会の変容における疎外に関心を持ち、変わり続ける写真イメージをモチーフにしてミクストメディア作品を制作している。2022年より山形県酒田市に移住し、土門拳記念館学芸員として働いている。

略歴

- 1987年 中国貴州省生まれ
- 2009年 華南師範大学美術学院写真科卒業
- 2012年 華南師範大学美術研究科現代美術専攻修士課程修了
- 2022年 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻博士後期課程修了

主な展覧会

- ・個展『HAPPY HOLIDAYS』半山ギャラリー（東京/2021）
- ・『Re』長亭ギャラリー（東京/2021）
- ・『New Normal, Abnormal, 変わらないもの』とりでアートギャラリー（茨城/2020）
- ・『イメージのもつ政治性と歴史性』映像ワークショップおよび上映会（東京/2019）
- ・『在日中国遊学者作品展』中国文化センター（東京/2018）
- ・『ATLAS展』（東京藝術大学/2018）
- ・仁川国際海洋メディアフェスティバル2018（韓国仁川/2018）
- ・『ひゅうーどろどろ』滞在制作および展覧会（広島/2017）



《胡蝶の夢》展示風景、2021



《胡蝶の夢/橋》、インクジェットプリント、45cm×600cm、2021



《胡蝶の夢/インターチェンジ》、大理石にUVプリント
100cm×7cm、2021



《胡蝶の夢/卵》、インクジェットプリント、59cm×84cm、2021

●本展では

肖像写真的な撮影手法を用いて、ぬいぐるみなど「現代の偶像」ともいべき被写体を撮影した写真作品を展示予定。土門拳の「古寺巡礼」における仏像撮影などとのリンクを探る。また、UVレジンなどのミクストメディアを用いて土門の書作品を再現する作品も構想中。

KDMoP

Shonai Photo Meeting

—リミックス 土門拳—

庄内の作家による新しい写真 / 美術展

2024

9.27 Fri

—10.22 Tue

五十嵐 丈

千葉 奈穂子

早坂 葉

本間 聡美

王 憶冰

土門拳記念館

Ken Domon Museum of Photography

2025年4月、土門拳記念館の呼称が
「土門拳写真美術館」に変わります。

シナの皮剥ぎ 鶴岡市関川地区 2018年
撮影：五十嵐 丈

ケーディーモップ KDMoP?

2023年11月、土門拳記念館は、地元・庄内地域の写真家や美術家たちが中心となった交流や活動の場を新たに創出することを目指し、新プロジェクト「KDMoP Shonai Photo Meeting」を立ち上げました。KDMoPは、土門拳記念館の英語名 = Ken Domon Museum of Photography の略称。この少々覚えづらいプロジェクト名は、展覧会やワークショップなど、その活動を様々な形でアウトプットすることによって、写真・美術を介した双方向的なコミュニケーション (=Photo Meeting) を多くの方々と共有することを目指して名付けられました。写真表現が多様化する今日、20世紀日本を代表する写真家・土門拳の故郷である庄内エリアで、現代作家の活動の場を広げていくことを志しています。

初めて行う今回の展覧会では、「土門拳」をテーマに、キャリアや作風の異なる5人の作家がそれぞれの眼差しで写真家・土門拳を新たに解釈し、作品を発表します。メンバーは全員庄内出身もしくは在住の、地元に関わりを持つ作家たちです。発表作品のメディアは写真が中心となりますが、インスタレーションや映像など、写真に隣接する幅広い媒体を取り入れ、多様な表現が展開されるグループ展となる予感。土門拳記念館における新たな試みをどうぞお見逃しなく！

KDMoP Shonai Photo Meeting

ーリミックス土門拳ー

2024
9.27 Fri – 10.22 Tue



●会期中のイベント

ご予約・お問い合わせは土門拳記念館まで

9/28 (土) 14:00 –

参加作家によるギャラリートーク

ご予約・参加無料 (要入館料)

10/19 (土) 10:00 – 16:00

あなたのポートレート in 土門拳記念館

本展参加作家の本間聡美氏が、土門拳記念館の館内&周辺で、この日限りの・あなただけのポートレートを撮影します！

ご予約・要入館料 / 10組限定 (複数人も可)

参加費 1組2,000円 *お支払いは現金のみ

(撮影時間30分以内 / 完成データ2カットを後日お渡し)

土門拳記念館
Ken Domon Museum of Photography

会期中無休
開館：9:00–17:00 [入館は16:30まで]
入館料：一般800円 / 高校生400円
中学生以下無料

山形県酒田市飯森山2-13 飯森山公園内
TEL：0234-31-0028
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>
info@domonken-kinenkan.jp